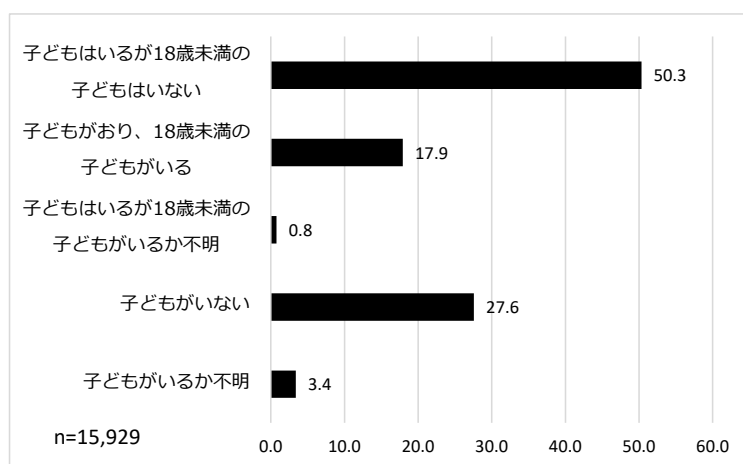


VIII 18歳未満の子どもがいる者の状況

1 18歳未満の子どものいる者の割合と特徴

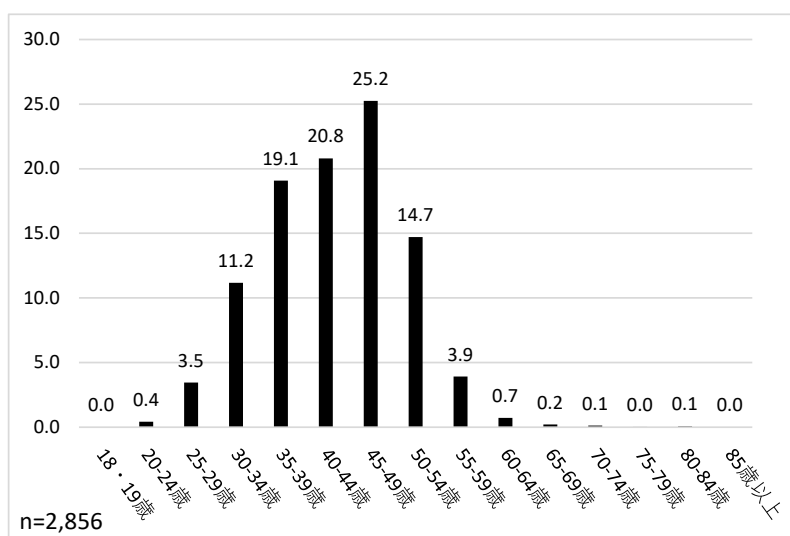
18歳未満の子どもがいる者の割合と特徴はどのようなであろうか。本調査の調査回答者15,929人のうち、18歳未満の子どもがいる者は17.9%（2,856人）である（図表VIII-1）。また、年齢階級別に18歳未満の子どものいる者の割合をみたものが図表VIII-2であるが、45～49歳で最も高く（25.2%）、次に40～44歳（20.8%）、35～39歳（19.1%）となっている。

図表VIII-1 18歳未満の子どもの有無（%）



注) 個人票により集計している。

図表VIII-2 18歳未満の子どもがいる者の年齢階級別割合（%）

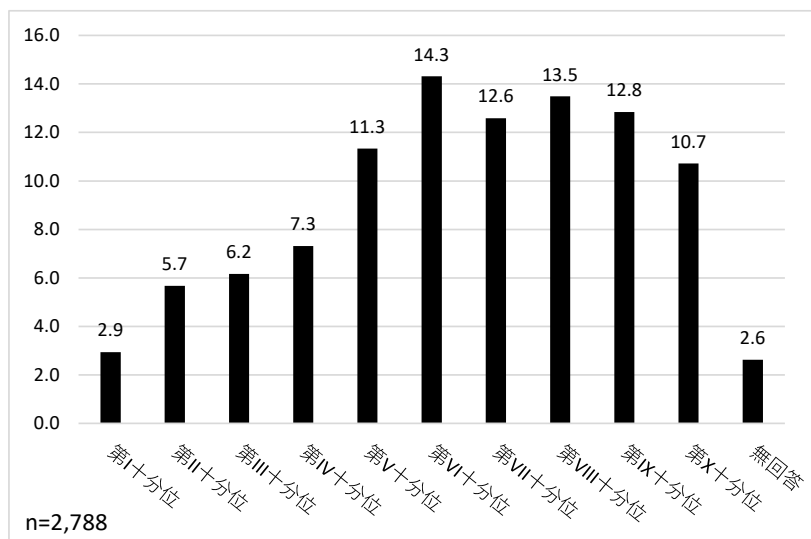


注) 個人票により集計している。

2 18歳未満の子どものいる者の生活の状況

等価可処分所得階級別に18歳未満の子どもがいる者の割合をみると、第VI十分位で最も高く(14.3%)、次に第VIII十分位(13.5%)、第IX十分位(12.8%)となっている(図表VIII-3)。

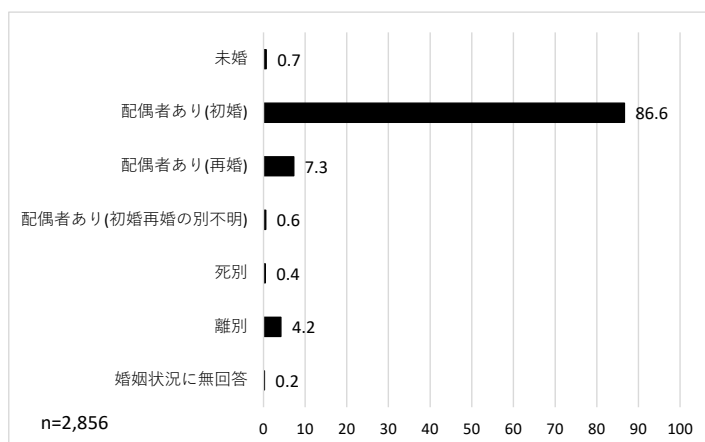
図表 VIII-3 18歳未満の子どもがいる者の等価可処分所得階級別割合(%)



注) 個人票と世帯票により集計している。分母には世帯票情報が利用可能でない者を含まない。

18歳未満の子どもがいる者について婚姻状況別の割合をみると、配偶者あり(初婚)の者の割合が最も高く(86.6%)、次に配偶者あり(再婚)(7.3%)、離別(4.2%)となっている(図表VIII-4)。

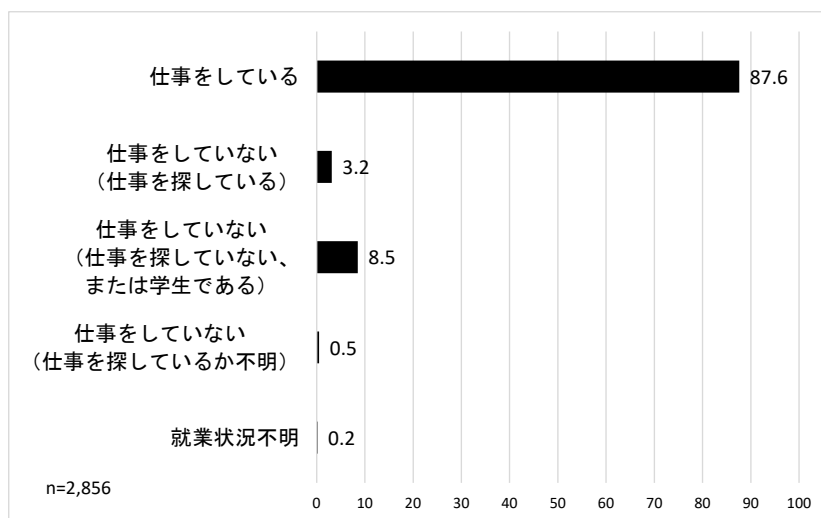
図表 VIII-4 18歳未満の子どもがいる者の婚姻状況別割合(%)



注) 個人票により集計している。

18歳未満の子どもがいる者について就業状況別の割合をみると、仕事をしている者の割合が最も高く（87.6%）、次に仕事をしていない（仕事を探していない、または学生である）（8.5%）、仕事をしていない（仕事を探している）（3.2%）となっている（図表 VIII-5）。

図表 VIII-5 18歳未満の子どもがいる者の就業状況別割合（%）

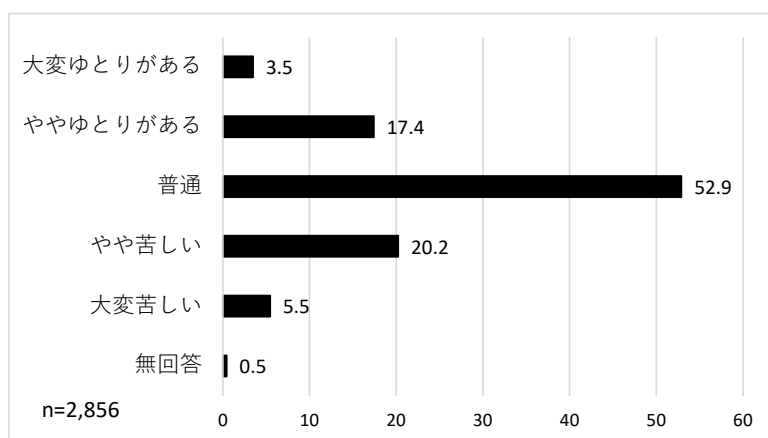


注) 個人票により集計している。

3 18歳未満の子どものいる者の生活への評価

図表 VIII-6 は、18歳未満の子どものいる者の生活の状況への評価（暮らし向き）を示している。「大変ゆとりがある」、「ややゆとりがある」と回答した者は全体の 20.9%であり、「大変苦しい」、「やや苦しい」と回答した者は全体の 25.7%であった。

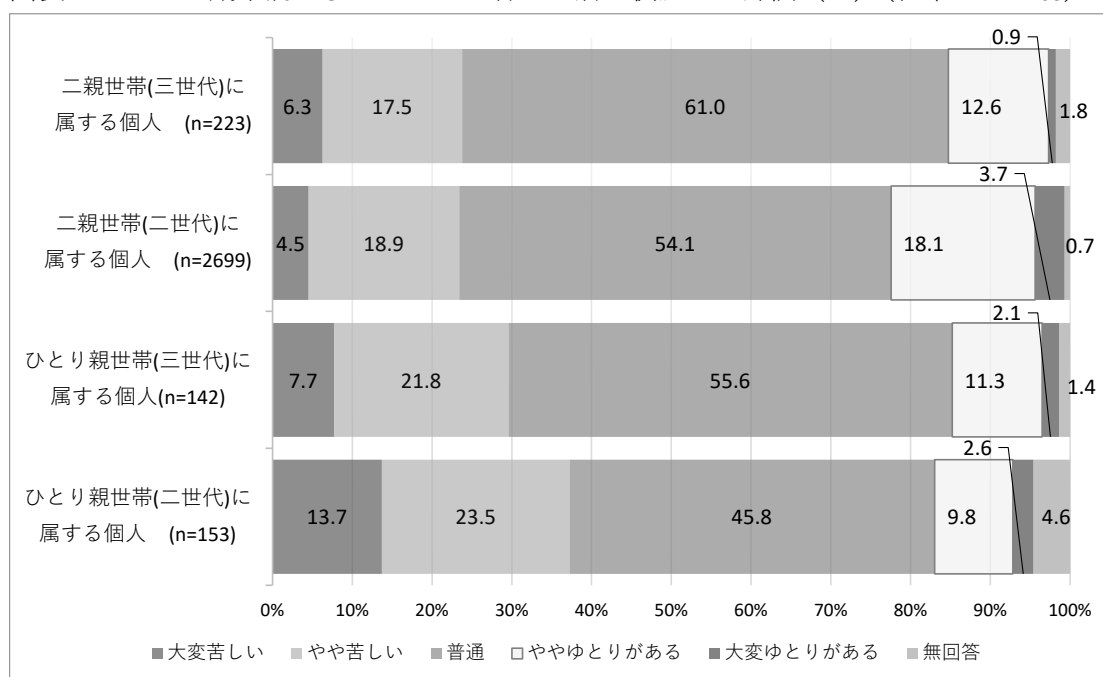
図表 VIII-6 18歳未満の子どもがいる者の生活の状況への評価（%）



注) 個人票により集計している。

図表 VIII-7 は、18 歳未満の子どもがいる世帯に属する個人（18 歳未満の子どもがいる個人ではないことに留意）について、生活の状況への評価（暮らし向き）を世帯タイプ別に見たものである。生活の状況が「大変苦しい」「やや苦しい」と回答した者の割合は、二親世帯（三世代）に属する個人で 23.8%、二親世帯（二世代）に属する個人で 23.4%、ひとり親世帯（三世代）に属する個人で 29.6%、ひとり親世帯（二世代）に属する個人で 37.3%であった。18 歳未満の子どものある世帯に属する個人の中では、二世帯のひとり親世帯に属する個人が、それ以外の世帯タイプに属する個人に比べ、生活の状況をより苦しいと感じている。

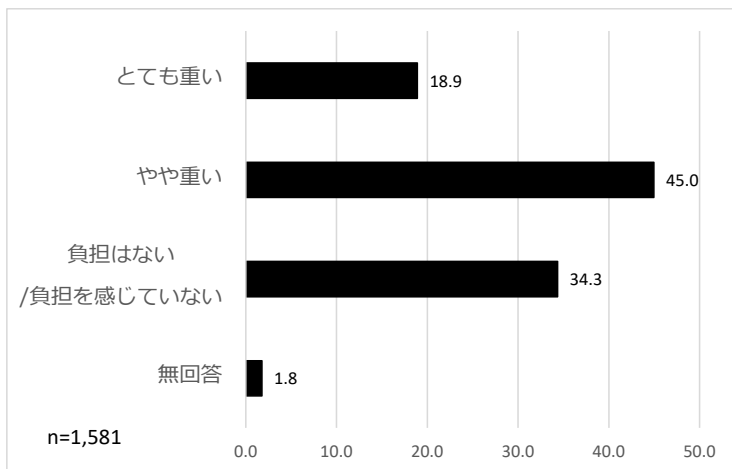
図表 VIII-7 18 歳未満の子どもがいる者の生活の状況への評価（%）（世帯タイプ別）



注) 世帯票及び個人票により集計している。18 歳未満の子どものいる世帯で上記の世帯タイプに分類できない世帯は除いている。

本調査の世帯票では、調査対象世帯に 18 歳未満の子どもがいる場合に、その子どもの教育費にかかる支出の負担感を「とても重い」、「やや重い」、「負担はない/負担を感じてない」の選択肢により尋ねている。これを 18 歳未満の世帯員がいる世帯（1,581 世帯）で集計したものが図表 VIII-8 である。教育費の支出の負担感について、「とても重い」と回答した世帯は全体の 18.9%、「やや重い」と回答した世帯は全体の 45.0%、「負担はない/負担を感じていない」と回答した世帯は全体の 34.3%であった。

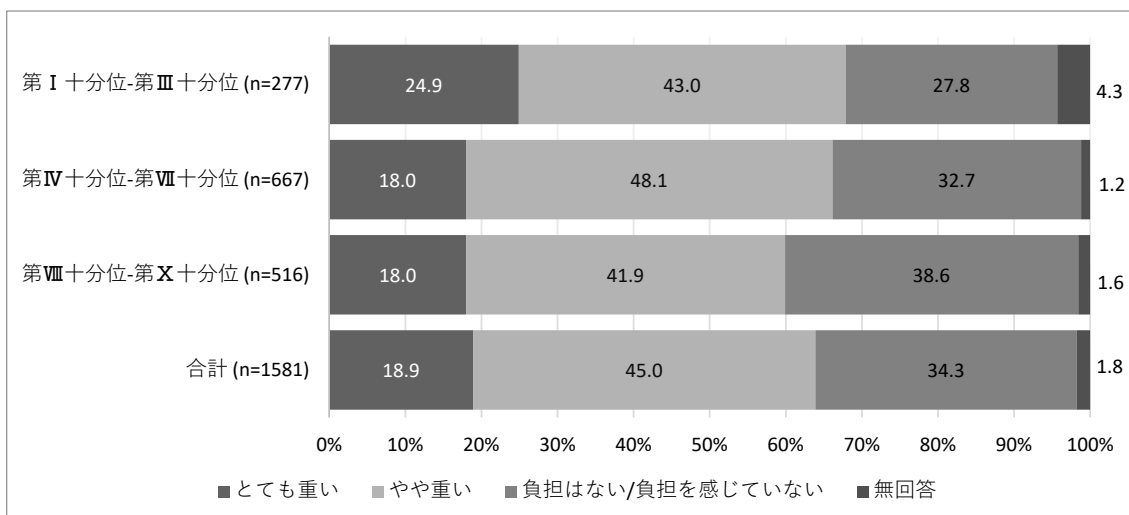
図表 VIII-8 18歳未満の子どもがいる世帯の子どもの教育にかかる支出の負担感 (%)



注) 世帯票により集計している。分母には18歳未満の世帯員がいない世帯及び18歳未満の世帯員がいるが不明な世帯を含まない。

18歳未満の子どもがいる世帯について、等価可処分所得階級別に、子どもの教育費の支出の負担感を見たものが図表 VIII-9 である。「とても重い」と回答した世帯は、第 I 十分位-第 III 十分位では 24.9%、第 IV 十分位-第 VII 十分位では 18.0%、第 VIII 十分位-第 X 十分位では 18.0% となっている。第 I 十分位-第 III 十分位の世帯は第 IV 十分位-第 X 十分位の世帯と比較して教育の支出の負担を「とても重い」と感じる傾向があることが分かる。

図表 VIII-9 18歳未満の子どもがいる世帯の子どもの教育にかかる支出の負担感 (%) (等価可処分所得階級別)

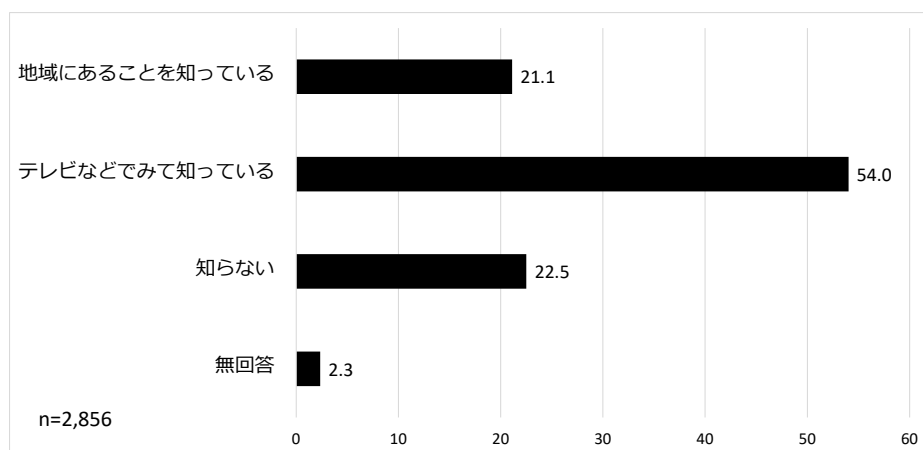


注) 世帯票により集計している。分母には18歳未満の世帯員がいない世帯及び18歳未満の世帯員がいるが不明な世帯を含まない。全体の合計 (n=1,581) には等価可処分所得が不明の世帯を含む。

4 18歳未満の子どものいる者の子ども食堂・地域食堂の認知状況と利用状況

本調査の個人票では、18歳未満の子どもがいる個人に対して、子ども食堂・地域食堂を知っているかどうか（認知状況）について尋ねている。子ども食堂・地域食堂について、21.1%が「地域にあることを知っている」、54.0%が「テレビなどで見て知っている」と回答し、「知らない」と回答した者は22.5%であった（図表 VIII-10）。

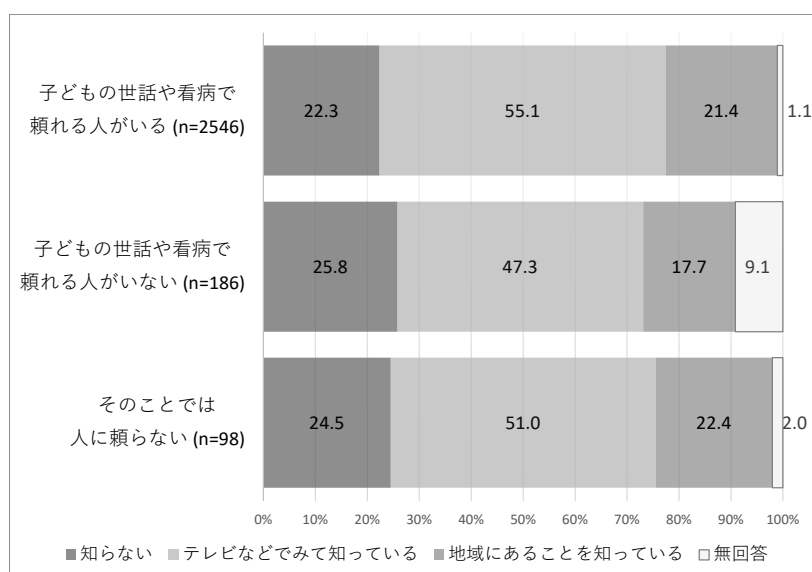
図表 VIII-10 18歳未満の子どもがいる者の子ども食堂・地域食堂の認知状況（%）



注) 個人票により集計している。分母には18歳未満の子どもがいない個人、18歳未満の子どもがいるか不明の個人を含まない。

18歳未満の子どものいる個人について、子どもの世話や看病について頼れる人の有無別に、子ども食堂・地域食堂の認知状況を見たものが図表 VIII-11 である。子どもの世話や看病について頼れる人がいると回答した者のうち、子ども食堂・地域食堂を「知らない」と回答した者は22.3%なのに対し、頼れる人がいないと回答した者のうち同様の回答をした者は25.8%であった。子どもの世話や看病について頼れる人がいない人ほど子ども食堂の存在を知らない傾向にあることが分かる。

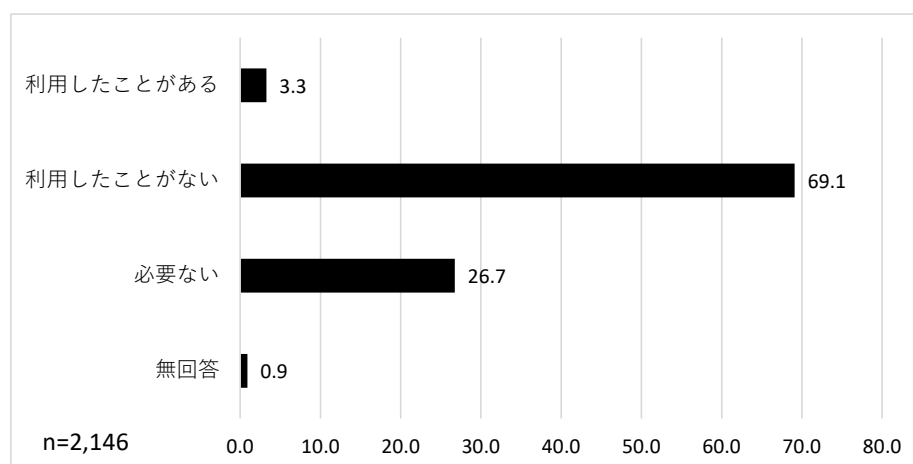
図表 VIII-11 18歳未満の子どもがいる者の子ども食堂・地域食堂の認知状況（％）（子どもの世話や看病について頼れる人の有無別）



注) 個人票により集計している。分母に18歳未満の子どもがいない個人、18歳未満の子どもがいるか不明の個人を含まない。

18歳未満の子どものいる個人のうち、子ども食堂・地域食堂の認知状況に関する設問で、「地域にあることを知っている」または「テレビなどで見て知っている」と回答した者について、子ども食堂・地域食堂の利用状況を見たものが図表 VIII-12 である。子ども食堂・地域食堂を知っている者のうち、「利用したことがある」と回答した者の割合は3.3%であり、69.1%が「利用したことがない」、26.7%が「利用の必要がない」と回答している。

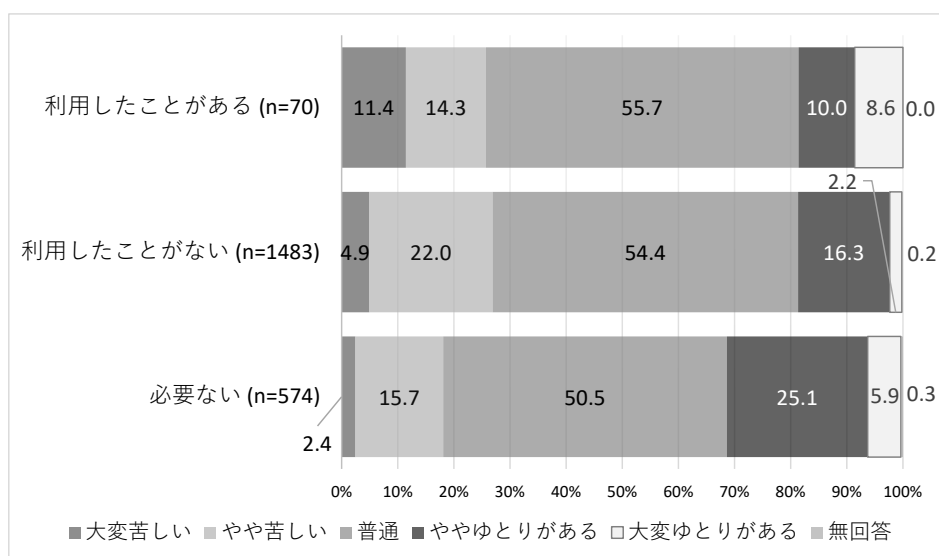
図表 VIII-12 18歳未満の子どもがいる者の子ども食堂・地域食堂の利用状況（％）



注) 個人票により集計している。分母には18歳未満の子どもがいない個人、18歳未満の子どもがいるか不明の個人、子ども食堂・地域食堂の認知状況に関する設問で「知らない」と回答した個人を含まない。

また、18歳未満の子どものいる個人について、子ども食堂・地域食堂の利用の有無別に、現在の暮らし向きを見たものが図表 VIII-13 である。利用したことがあると回答した者のうち、現在の暮らし向きが「大変苦しい」と回答した者の割合は 11.4%であり、利用したことがないと回答した者のうち、同様の回答をした者の割合は 4.9%であった。一方、利用したことがあると回答した者のうち、現在の暮らし向きが「やや苦しい」と回答した者の割合は 14.3%であり、利用したことがないと回答した者のうち、同様の回答をした者の割合は 22.0%であった。子ども食堂を利用したことがある者は、子ども食堂を利用したことがない者と比較して、現在の暮らし向きが「大変苦しい」と回答する者が多い傾向がある。

図表 VIII-13 18歳未満の子どものいる者の現在の暮らし向き（%）（子ども食堂・地域食堂の利用状況別）



注) 個人票により集計している。全体の合計 (n=2,127) には 18歳未満の子どものいない個人、18歳未満の子どものいるか不明の個人、子ども食堂・地域食堂の認知状況に関する設問で「知らない」と回答した個人、及び無回答を含まない。

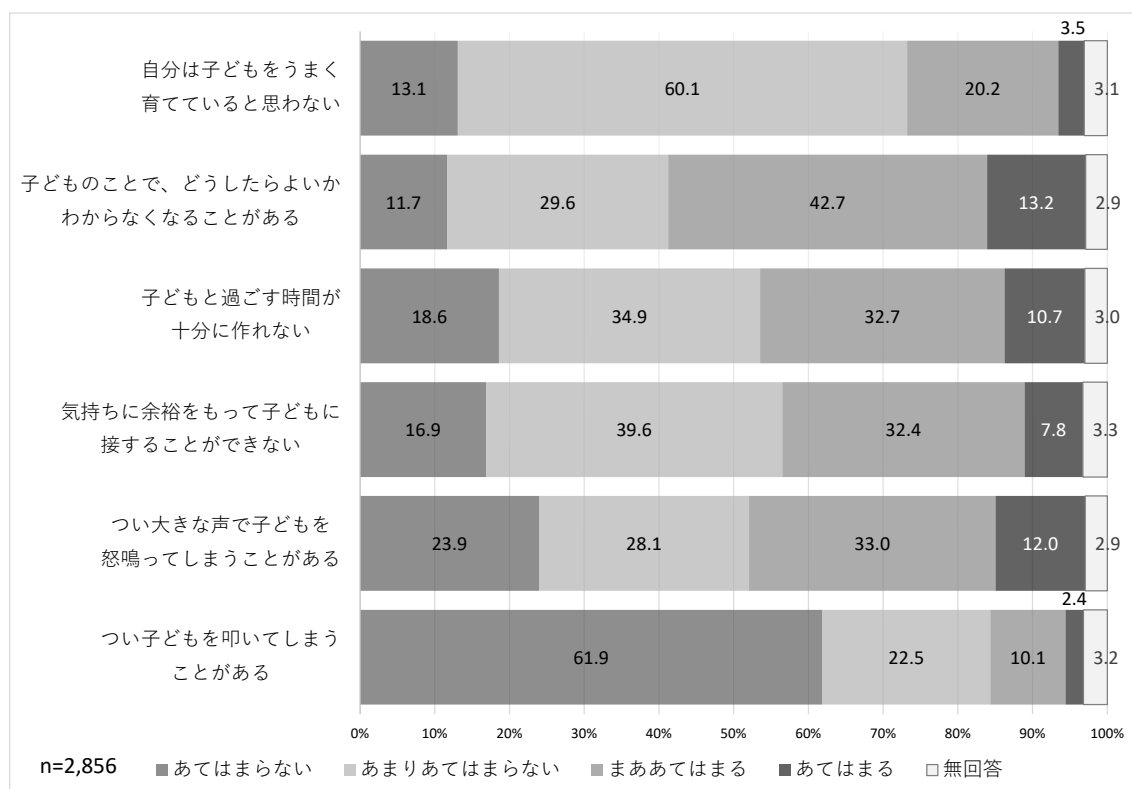
5 18歳未満の子どものいる者の子育てへの主観的評価

図表 VIII-14 は、18歳未満の子どものいる者に尋ねた、子育ての状況に関する 6 項目の設問（子育てへの主観的評価）に対する結果を示している。「自分は子どもをうまく育てていると思わない」については、23.7%が「あてはまる」「まあ当てはまる」と回答した一方、73.2%が「あてはまらない」「あまり当てはまらない」と回答した。「子どものことでどうしたらよいかわからなくなることがある」については、55.8%が、「あてはまる」「まあ当てはまる」と回答した。

「子どもと過ごす時間が十分に取れない」については 43.5%が「あてはまる」「まあ当てはまる」と回答した。「気持ちに余裕をもって子どもと接することができない」につい

ては40.2%が「あてはまる」「まああてはまる」と回答した。「つい大きな声で子どもを怒鳴ってしまうことがある」については、45.0%が「あてはまる」「まああてはまる」と回答した。「つい子どもを叩いてしまうことがある」については、12.5%が「あてはまる」「まああてはまる」と回答した。

図表 VIII-14 18歳未満の子どものいる者の子育てへの主観的評価 (%)



注) 個人票により集計している。分母に18歳未満の子どもがいない個人、18歳未満の子どもがいるか不明の個人を含まない。「自分は子どもをうまく育てていると思う」のみ逆転項目にし、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」への回答を用いた。

等価可処分所得階級別に子育てへの主観的評価を見たものが図表 VIII-15 である。「自分は子どもをうまく育てていると思わない」については、第I十分位-第III十分位の者の26.5%が「あてはまる」または「まああてはまる」と回答しており、第IV十分位-第VII十分位(25.1%)、第VIII十分位-第X十分位(21.2%)の者と比較して高くなっている。

「子どものことでどうしたらよいかわからなくなることがある」については、第IV十分位-第VII十分位の者の59.8%が「あてはまる」または「まああてはまる」と回答しており、第I十分位-第III十分位(53.2%)、第VIII十分位-第X十分位(53.1%)の者と比較して高い。

「子どもと過ごす時間が十分に作れない」については、第VIII十分位-第X十分位の者の46.0%が「あてはまる」または「まああてはまる」と回答しており、第I十分位-第III十分位

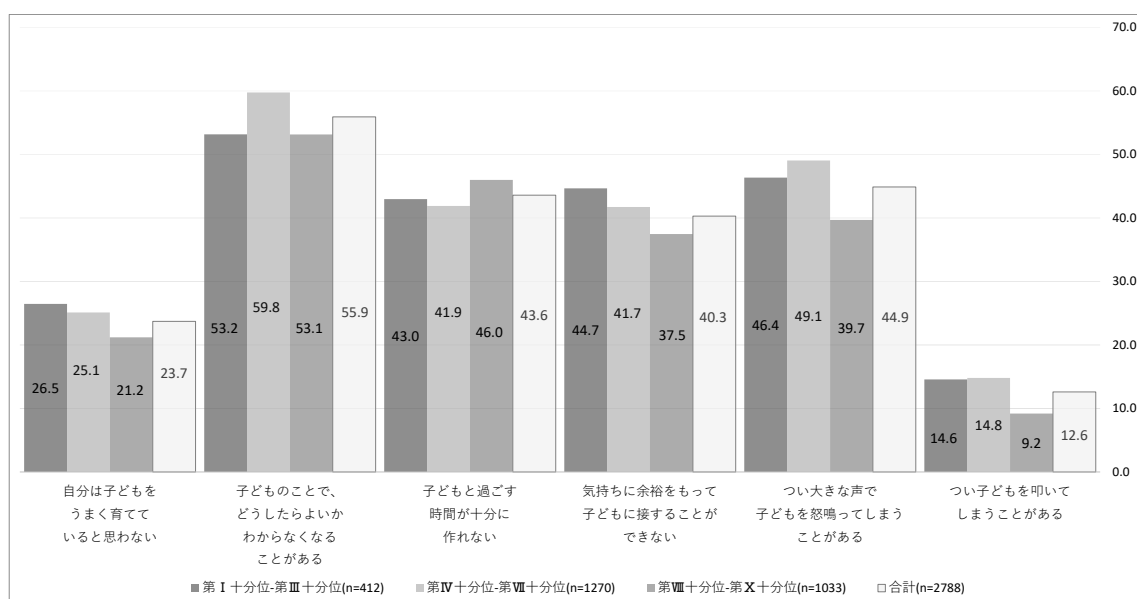
(43.0%)、第IV十分位-第VII十分位 (41.9%) の者と比較して高くなっている。

「気持ちに余裕をもって子どもと接することができない」については、第I十分位-第III十分位の者の44.7%が「あてはまる」または「まああてはまる」と回答しており、第IV十分位-第VII十分位 (41.7%)、第VIII十分位-第X十分位 (37.5%) の者と比較して高くなっている。

「つい大きな声で子どもを怒鳴ってしまうことがある」については、第IV十分位-第VII十分位の者の49.1%が「あてはまる」または「まああてはまる」と回答しており、第I十分位-第III十分位 (46.4%)、第VIII十分位-第X十分位 (39.7%) の者と比較して高い。

「つい子どもを叩いてしまうことがある」については、第IV十分位-第VII十分位の者の14.8%が「あてはまる」または「まああてはまる」と回答しており、第I十分位-第III十分位 (14.6%)、第VIII十分位-第X十分位 (9.2%) の者と比較して高い。

図表 VIII-15 18歳未満の子どもがいる者の子育てへの主観的評価が「あてはまる」「まああてはまる」者の割合 (%) (等価可処分所得階級別)



注) 世帯票及び個人票により集計している。分母に無回答を含み、18歳未満の子どもがいない個人、18歳未満の子どもがいるか不明の個人を含まない。合計に等価可処分所得が不明の世帯に属する個人を含む。

「自分は子どもをうまく育てていると思う」のみ逆転項目にし、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」への回答を用いた。